



常民の説いた“博愛”が、 いつまでも心に息づくように

日本赤十字社では、日赤の社業振興に寄与することを目的とした「赤十字有功会」が各県ごとに組織されています。

その一つである佐賀県赤十字有功会は、日赤の銀色・金色有功章を受章された方々が、お互いの親睦と交流を図り、日赤の活動の支援を行っていただくための、有志の方々による支援団体です。

会員の一人、諸田 謙次郎さん。

赤十字の前身である「博愛社」を創立した佐野常民と同じ佐賀市川副町に生まれ育ち、小さなころから地域の行事等を通じて常民に親しんできました。

「常民は尊敬する人物であり、その人が作った赤十字社は大切なもの」という考えが、気づかぬうちに自分の中にありました。」

地元の役場で勤めていた際に旧佐野常民記念館の建設に携わったことをきっかけに、より深く、常民や赤十字と関わるようになりました。退職後も、歴史館館長として、また、有功会員として関係が続いています。

「記念館建設時に、日本全国の有功会から多額の寄付が寄せられたことをきっかけに、赤十字有功会を知りました。エボラ出血熱の感染拡大や度重なる自然災害の



リニューアルした歴史館に訪れた佐賀県赤十字有功会員に展示物の説明を行う諸田さん(令和3年10月)



佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館館長の諸田謙次郎さん

際、現場で働く赤十字の姿をニュース等で観て、印象に残っていました。そうした活動が寄付により行われていることも知っていましたから、自分も何か一助になればと思い、有功会への加入を決めました。」

今年は常民の生誕から200年。

150年目には生誕地近くの中川副公民館の中に現在の歴史館の前身である「佐野記念館」が新設される等、常民の遺志を顕彰するための事業が、赤十字や地元の方々により行われました。

「常民の言葉に、“文明開化といえば、人々はみな法律の完備、もしくは機械の発達と答えるが、赤十字のような組織の発展こそ、文明開化の象徴だ”とする言葉があります。技術が今後どんなに進歩しても、差別のない心、慈しむ心をすべての人が持つことは、永遠に達成できないことかもしれません。

だからこそ、常民という人物を顧みることは、時代が代わり、価値観が変わっていく中で、『人道とは』『慈しむ心とは』と、自分に問いかけるきっかけになると思います。

館長として、また有功会員として、地元川副町や赤十字と協力しながら、常民の説いた博愛の心をより多くの人に伝えていきたいです。」

広報誌「赤十字さが」Vol.86 令和4年4月1日発行 編集・発行/日本赤十字社 佐賀県支部

+ 日本赤十字社 佐賀県支部
Japanese Red Cross Society

赤十字さが

さがの人たちにもっと伝えたい、佐賀の赤十字。



佐賀市立中川副小学校 児童たち

博愛のこころを未来へ [P.2]

- 佐野常民生誕200年記念事業 [P.4]
- ラブラッド会員大募集!! [P.5]



3施設問い合わせ先

佐賀県支部

〒840-0843 佐賀市川原町2番45号
TEL 0952-25-3108

唐津赤十字病院

〒847-8588 唐津市和多田2430番
TEL 0955-72-5111

佐賀県赤十字血液センター

〒849-0925 佐賀市八丁畷町10-20
TEL 0952-32-1011



ご愛読
ありがとうございます

2022 Spring

vol.86

年2回発行
4月 10月



公式 Instagram 更新中



公式 Facebook 更新中

常民のことば

“博愛これ仁という。”

中国唐代の詩人 韓愈の著作の冒頭に記載されたこの言葉は、「博愛社」の由来となりました。

“文明開化といえ、人々はみな法律の完備、もしくは機械の発達と答えるが、私は赤十字のような組織の発展こそ、文明開化の象徴だと考える。”

ウィーン万博で世界に広がってゆく赤十字社を見た常民は、後に博愛社員総会の席でこう語りました。

著名人が語る、佐野常民

常民は涙もろい人物として有名でした。西南戦争の最中、敵味方の差別なく傷ついた人々を救う組織として「博愛社」設立が許可された際にも、感激のあまり涙を流したといひます。また、常民の人物像について、当時の著名人はこう評しています。

「佐野に会うや、千万言熱心に一事を続けられ、その際はむしろ聞くことをいやと思つたが、後にこれを考えてみれば、一々至言にして敬服せざるを得なかつた。」

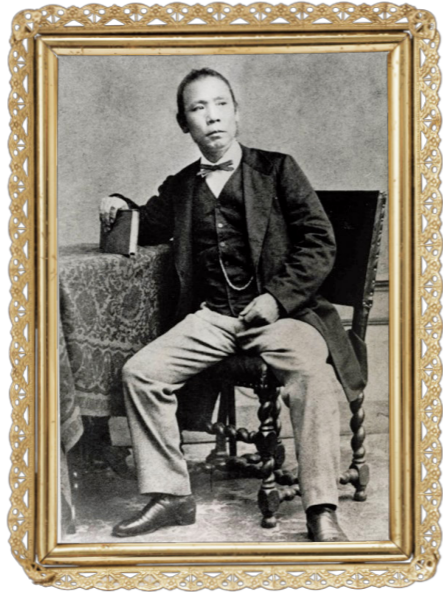
伊藤博文

「誠に善良の性質で、万物に対して非常に熱心で誠実な人なり。」

大隈重信

「海鼠の如し。その意は、或は叩き、或は折り、或はねじりても少しも変じず。」

大給 恒



常民の生涯についての詳細は日本赤十字社佐賀県支部特設ページへ



激動の時代、なぜ常民は日本に赤十字社を創つたのか、なぜ敵味方の差別なく救うことにこだわつたのか。常民の人物像や、生誕から200年経つた現在に引き継がれる「博愛のこころ」に迫ります。

佐野常民は、今から200年前、現在の佐賀市川副町に生まれました。西南戦争の惨状を嘆いた常民は、「敵味方の差別なく救う」という信念のもと、明治10年「博愛社」を設立。「博愛社」は後に、世界で19番目の赤十字社として正式に認められ、「日本赤十字社」と改称し、常民は初代社長となります。



西南戦争における博愛社の救護活動の様子

博愛のこころを未来へ

日本赤十字社の生みの親、佐野常民生誕から200年

常民ゆかりの地

佐賀県内には、常民にゆかりのある場所が数多くあります。ここでは中でも、赤十字社にゆかりの深い場所をいくつか紹介します。



1 唐津赤十字病院(佐野講堂)(唐津市) 平成28年に移転新築した唐津赤十字病院の1階には、常民にちなんで名づけられた講堂があります。

3 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館(佐賀市)

昨年9月にリニューアルオープンしたばかりの館内には、常民の数々の功績が展示されています。リニューアルに際し新設された赤十字コーナーでは、赤十字社の歴史や災害時に配布する救援物資等が紹介されています。



歴史館2階の赤十字コーナー



2 日本赤十字社佐賀県支部(佐賀市) 川原町にある支部の入り口では、常民の胸像が来訪者を出迎えます。



佐賀県支部前 佐野常民像

4 常民生誕地(佐賀市)

川副町にある常民の生誕地には、記念碑があり、毎年12月、地域の方が集まり、常民をしのび「佐野祭」が開催されています。



佐野常民生誕地に建つ記念碑

1902 明治35年 81歳	1887 明治20年 66歳	1877 明治10年 56歳	1873 明治6年 52歳	1867 慶応3年 46歳	1863 文久3年 42歳	1855 安政2年 34歳	1854 嘉永7年 33歳	1853 嘉永6年 32歳	1851 嘉永4年 30歳	1835 天保6年 14歳	1832 天保3年 11歳	1822 文政5年 誕生
----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	--------------------



博愛社設立許可の図

Point! 負傷者続出の報に心を痛め、今こそ赤十字事業実現の時の思いを強める。元老院議員で志を同じくする大給恒らとともに「博愛社」設立を嘆願。一度は却下されるも、戦地である九州に赴き、有栖川宮に許可され、救護活動を開始する。

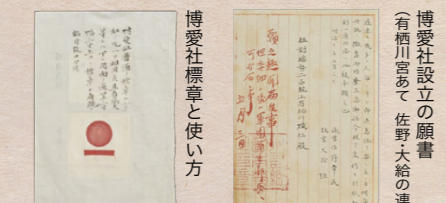
Point! 西南戦争が勃発。ウィーン万博に事務副総裁として派遣される。ウィーン万博では、赤十字がさらに世界に広がっているのを知る。

Point! パリ万博では、西洋諸国の出品物を視察する中で、創設されたばかりの国際的救護組織「赤十字」を知る。「戦争で負傷した者を、敵味方の差別なく救護する」という組織の在り方が、かつて学んだ「医の倫理」と重なり常民は深い感銘を受ける。

藩主鍋島直正の命により佐賀に戻る。この時、京都で技術者(田中久重、儀右衛門父子等四人)を誘い佐賀に戻る。長崎で塾を開く。佐賀藩に新設された精煉方(理化学研究所)につとめる。佐賀藩から「医業免札」(医師免許)が与えられる。蘭書に基づいた蒸気船・蒸気車のひな形を製造。長崎に設置された海軍伝習所の伝習生になる。国産初の実用蒸気船「凌風丸」の建造に携わる。

Point! 修業時代、常民は、医学、理化学、西洋事情、海防問題まで、幅広く学ぶ。中でも、緒方洪庵の「適塾」で学んだ、ドイツの医学者フーフェランドの説く人間愛に基づいた「医の倫理」は、常民の後の人生に多大な影響を与えた。「不治の病者…棄てて省みざるは人道に反す、たとひ救ふこと能はざるも、之を慰するは仁術なり。」(緒方洪庵著「扶氏医戒之略」より)

藩医(外科)佐野常徴の養子となる。藩校「弘道館」の内生になる。優秀であった常民は、その後、京都、江戸、大阪など多くの塾を巡り、修業を積む。



博愛社標章と使い方

博愛社設立の願書(有栖川宮あて 佐野大給の連名)



パリ万博赤十字パビリオン(パリ万博公式ハンドブックより)

常民と日本赤十字社

※年齢は数え年です。 ※西暦は、和暦を基に記載しています。

佐野常民生誕200年記念事業

博愛のこころを未来へ



佐野常民 生誕200年

2022年は、佐野常民の生誕から200年目にあたります。佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの県内赤十字3施設では、常民の生誕200年を祝すとともに、より多くの人に常民や赤十字社について知ってもらうための様々な企画を予定しています。

博愛みらいバス

(With 青少年赤十字100周年記念)

日本赤十字社では、子どもたちに赤十字の精神に基づき、世界の平和や福祉に貢献する大切さを伝える活動を行っています。(以下「青少年赤十字」)

2022年は、青少年赤十字の創設から100周年の年でもあります。佐賀県支部ではこれを記念して、より多くの子供たちに、常民の説いた「博愛のこころ」を知ってもらうために、青少年赤十字に加盟する県内の小・中・高の生徒たちと共に「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」を見学するバスツアーを行います。



100周年に向けて、全国の赤十字メンバーにデザイン案を募集し選ばれた記念ロゴマーク



記念グッズの作成・配布

期間中、各施設では200年記念グッズを作成し、配布いたします。ぜひゲットしてください。(何がもらえるかはお楽しみ!)



胸像メンテナンス



佐賀県支部にある胸像

佐賀県支部には、昭和43年、佐賀県出身の著名な彫刻家 古賀忠雄氏に依頼し制作した佐野常民像があります。



設置から半世紀が経過し、劣化が進んでいることから、皆様からのご寄付を募り、修繕を予定しています。

等身大パネルの展示

県内にある赤十字施設を訪れる方に見てもらうために、佐野常民の等身大パネルを作成しました。

2022年の1年間、県内3施設に展示されますので、お越しの際はぜひご覧ください!



この他にも様々な企画を予定しています!この機会にぜひ、県内赤十字施設にお越しください。

ラブブラッド会員 大募集!!

現在、佐賀県赤十字血液センターでは“ラブブラッド会員”を募集しております。コロナ禍ということもあり、「献血プラザさが」では『三密対策』を徹底しています。

一人ひとりの待ち時間が長ならないように、ロビーが密にならないように、献血にお越しいただく際は、できるだけ事前にご予約いただくようお願いしております。

献血の予約は、
献血Web会員サービス「ラブブラッド」からが便利!!
ラブブラッドに会員登録すると…

いつでも、どこでも!
全国の献血会場への
予約ができる!

全国共通の会員サービスなので、「献血プラザさが」はもちろん、出張先や旅行先など、他県の献血会場にも予約が可能です。スマホからいつでも予約ができます。

リ
ニ
ュー
ア
ル
し
て
使
い
や
す
い
!

血液検査の結果が
早く確認できる!

献血の後、希望すれば血液の検査結果を郵送で知らせてくれますが、会員になると、より早くスマホでいつでも確認できます。

会員限定のキャンペーン情報
や特典が届く!

佐賀県赤十字血液センターから、随時情報がメールで届きます。お得な情報や、会員限定キャンペーンの情報はラブブラッドから確認できます。

ポイントが貯まる!!

予約をするごとに、献血をするごとに、ポイントが自動的に貯まります。貯まったポイントは「献血プラザさが」で記念品に交換できます。



ラブブラッド会員 Aさん

お得がいっぱい!ラブブラッドへの新規登録はこちらから!⇒



会員になると、

お持ちの献血カードを
会員限定オリジナル
デザインの献血カードに
交換できます



さらに…!

佐賀県赤十字血液センターの公式Twitterアカウントをフォローすれば、毎日の予約状況や待ち時間、キャンペーン情報をリアルタイムでチェックできます。ラブブラッド会員登録と併せて、ぜひフォローお願いします!



※写真は2022年1月のものです。



災害に備えて。

救護班研修や訓練を実施

昨年の夏、「令和3年8月大雨災害」が発生。佐賀県を含めた複数の県が被災し、多くの方が被災されました。

近年、こうした大規模で、これまで経験したことが無いような災害が毎年のように全国で発生しています。

佐賀県支部では、いつどのような災害が発生した時にも迅速に対応できるよう、救護活動にあたる日赤救護班の訓練や研修会を、1年間様々な形で実施しています。

令和3年度の下半期も、記載のような訓練を実施しました。

※日赤救護班の基本編成は、医師1名、看護師長1名、看護師2名、主事2名の合計6名です。



令和3年8月大雨災害被災地の様子
(佐賀県嬉野市)



「避難所における健康アセスメント」を
シミュレーションした訓練(災害救護研修会)



救援物資の詰め込みの訓練を行う様子
(防災ボランティア設置・運営訓練)

9/29(水)	災害救護研修会(佐賀県支部)
11/28(日)▶29(月)	令和3年度日本赤十字社九州八県支部合同災害救護訓練 (宮崎県、福岡県)
12/11(土)	主事研修(唐津赤十字病院)
12/19(日)	防災ボランティア設置・運営訓練(佐賀県支部)



11月18日(木)

患者さんへ、心のこもった贈り物

ゆめさが大学唐津校からタオル帽子の寄贈

ゆめさが大学は、シニアの学習と交流の機会を提供し、生きがいの高揚と社会活動の促進を図るとともに、地域社会を担う人材の養成を掲げ様々な活動に取り組まれています。

今回、唐津赤十字病院に入院される、抗がん剤治療等の影響で頭髪に悩む患者さんへ、タオル帽子を寄贈いただきました。この帽子は、学生の方々が協力しながら手縫いで作成されたもので、タオル帽子を受け取った患者さんも大変喜ばれていました。



贈呈式後の座談会で、ゆめさが大学様より
タオル帽子の作成方法等について話を伺う様子

12月1日(水)~25日(土)

感染症から誰も取り残さない。

第39回「NHK海外たすけあい」キャンペーン実施

12月1日(水)から25日(土)にかけて、「NHK海外たすけあい」キャンペーンを実施しました。前年度に引き続き、佐賀県支部主催の街頭募金は中止しましたが、県内3施設やNHK佐賀放送局に設けた特設窓口には、多くの方からご寄付をお寄せいただきました。

皆様からのご寄付は、日赤が海外で支援活動を行うための事業資金として活用します。



令和3年度
キャンペーンの
メイン画像

12月23日(木)~24日(金)

「献血プラザさが」に サンタがやって来た!?

献血された方に
「献血サンタ」から
プレゼントを渡す
イベントを開催



12月23日(木)、24日(金)の2日間、「献血プラザさが」にて、献血された方にクリスマスプレゼントをお渡しするイベントを開催しました。

イベント当日は、職員扮する「献血サンタ」がいつ現れるのかわからないドキドキ感で、献血者の方と一緒に盛り上がりました。

献血サンタは、来年も皆さんに会えることを楽しみにしていましたよ!

1月1日(土)~2月28日(月)

あなたの今日が、だれかの明日に。

「ハタチの献血キャンペーン」実施

新年を迎え、新たに成人を迎える「ハタチ」の皆さんや、10代~20代の皆さんに献血の理解と協力を呼び掛けるキャンペーンを実施しました。

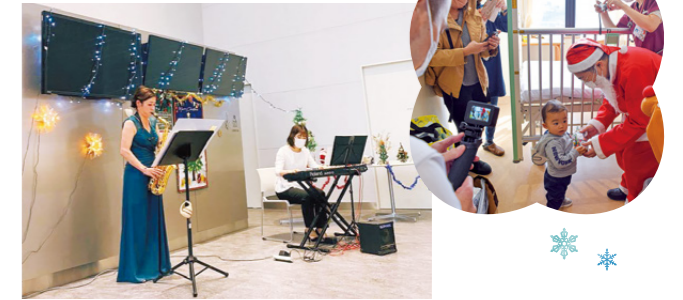
1月10日(祝)「成人の日」にゆめタウン佐賀にて行った献血イベントには、67名にご協力いただきました。
「あなたの今日が、だれかの明日に。」今後とも献血への温かいご協力をよろしくお願いいたします。



12月24日(金)

こっちにもやって来た!

クリスマスコンサート&小児科の
入院患者さんへのプレゼント



唐津赤十字病院の1階患者ラウンジにおいて、毎年恒例のクリスマスコンサートを開催しました。唐津市内の「ハーモニー音楽教室」で講師をされている深川さん(サクソ)と森さん(キーボード)に、「きよこの夜」などクリスマスソングを中心に演奏していただき、優しい音色に患者さんも職員も癒やされました。

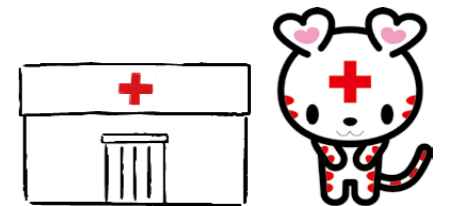
また、職員扮するサンタとトナカイが小児科の入院患者さんへプレゼントを届けました。笑顔で喜んでくれるお子さんもある一方、突然のサンタさんの登場にびっくりして逃げってしまうお子さんも…。

2月

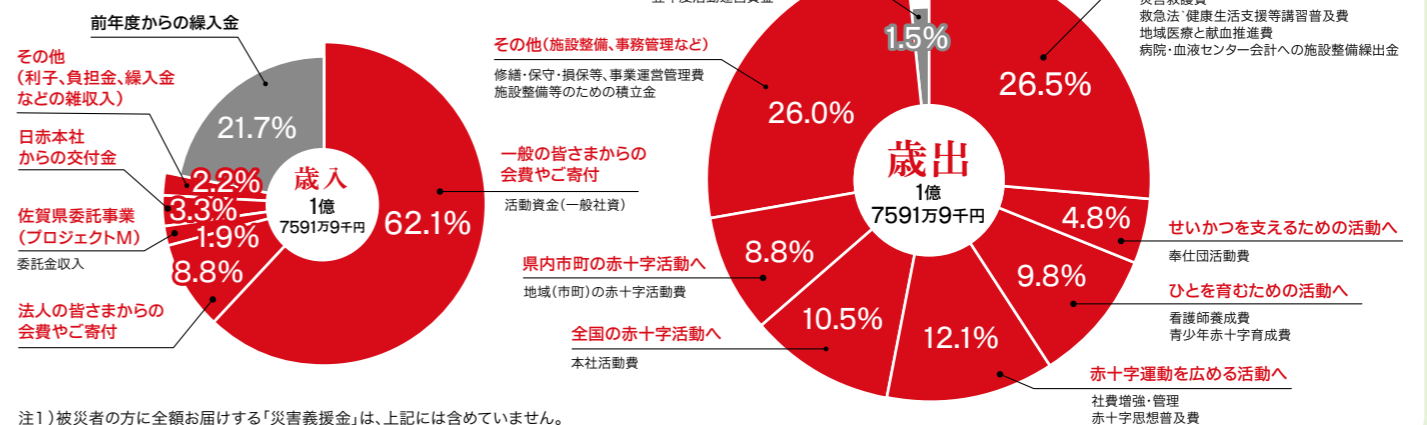
令和3年度 第2回支部評議員会

令和4年度事業計画と予算が承認されました

評議員会は佐賀県支部の最高議決機関です。支部及び唐津赤十字病院の事業計画と予算が承認され、佐賀県赤十字血液センターの事業計画が報告されました。



令和4年度 佐賀県支部予算



注1)被災者の方に全額お届けする「災害義援金」は、上記には含めていません。